

# 「がむしゃらに挑戦を」

## 第一学院高 秋田キャンパスで講話

### 日本陸上混成競技 男子十種初制覇の奥田選手

秋田市雄和で4、5日に行われた陸上競技の日本選手権・混成競技で男子十種競技を初制覇した奥田啓祐選手(25)＝第一学院高教Ⅱが6日、秋田市広面の同校秋田キャンパスで講話した。これまでの競技生活を振り返りながら「失敗の方が多いが、多くのことを学んだ。がむしゃらに挑戦してほしい」と呼びかけた。



目標を定め、挑戦し続けることの大切さを強調する奥田選手

社会で活躍する人から学ぶ「夢授業」の一環。オンライン参加を含む生徒30人が聴講した。奥田選手は東京都を拠点に活動。初めて訪れた本県で、国内の頂点に立った。前日獲得したばかりの金メダルを披露し「長年トップを争ってきた強敵を倒しての優勝でうれしい」と笑顔で報告した。

陸上は中学で始めたが、高校まで縁のなかった全国大会に何とかして出たいと思い、大学から十種競技に取り組んで念願の舞台に立つことができたという。「目標は人それぞれで、僕の場合は陸上だった。周囲への感謝を忘れず、こつこつ頑張ることを心がけている。みんなも、なりたいた自分を想像してみてほしい」と述べた。

十種競技の魅力についても解説。日本選手権の映像や写真を示しながら、1000gや砲丸投げ、走り高跳びなど幅広い種目で競うこと、2日間かけて競技するため選手を含め会場に一体感が生まれることなどを紹介した。持ち運ぶ荷物も多く、種目によって履き替える靴でスニーカーの



奥田選手は生徒とフラフープを使ったゲームで交流した

周大部分を占めると説明すると、生徒は声を上げて驚いていた。陸上の経験があるという3年の佐々木柘さん(17)は「やりたいこと、するべきことを自分で判断し頑張ること、環境に感謝することが大事だと思った」と話した。

奥田選手は授業後、取材に對して改めて日本選手権を振り返り「秋田で初優勝し、記憶に残る場所になった。来年もここで優勝したい。応援してくれた人には感謝しきれないので、感動を与えられる選手になって恩返ししたい」と語った。(富樫幸恵)